

Lesson 4

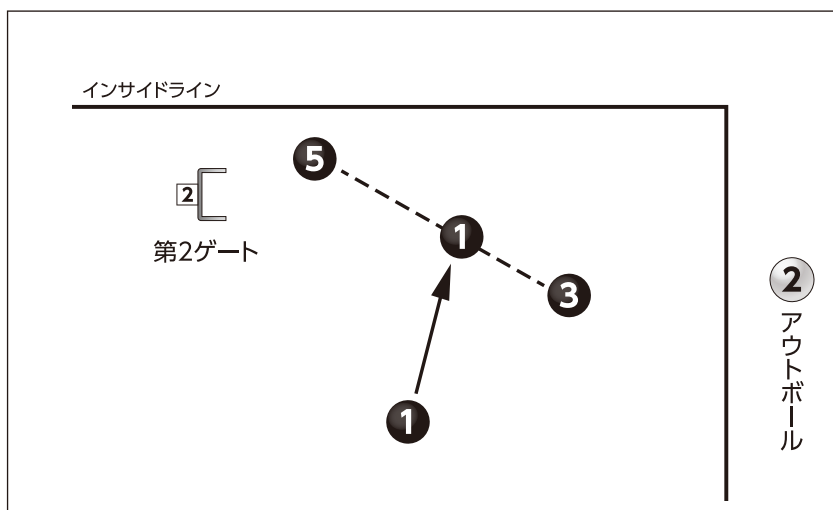
作戦の基本

つなぎ球

- 図のようなボール配置で、赤1番の打順とします。
- 赤1番からは、第2ゲート、⑤ボール、⑥ボールのどれも距離があり、ゲート通過やタッチが難しい場合は、自分が無理をしないで、③ボールと⑥ボールの間に入るように打撃して、ボールの連けいを作ります。このように、遠い距離をつなげる橋渡し役として使うボールを「つなぎ球」と言います。

※ただし、次の打順の白2番から狙われないことが前提です(②ボールはアウトボールなので、タッチをされることはありません)。

- 赤3番の打順になったら、①ボールへタッチすることで、その後の⑥ボールへのタッチがしやすくなります。また、タッチした①ボールは、相手チームのボール位置を確認しながら、スパーク打撃する場所を決めましょう。



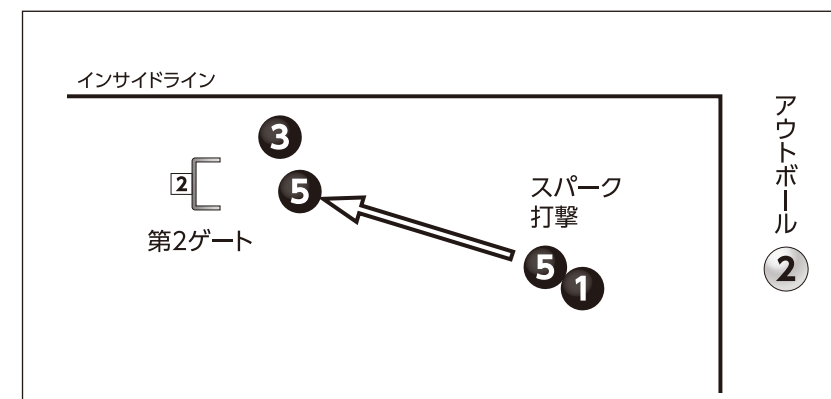
友達を助けるんじゃ!



送り球

- 図のようなボール配置で、赤1番が⑥ボールにタッチをしました。
- 赤1番は⑥ボールをスパーク打撃しますが、その場所からスパーク打撃で第2ゲートの通過をすることが難しい場合は、無理をせずに、⑥ボールを第2ゲート前の③ボールの近くに移動させます。このように、遠い味方ボールをより有利にさせるために、スパーク打撃で移動させるボールを「送り球」と言います。

※ただし、次の打順の白2番から狙われないことが前提です。

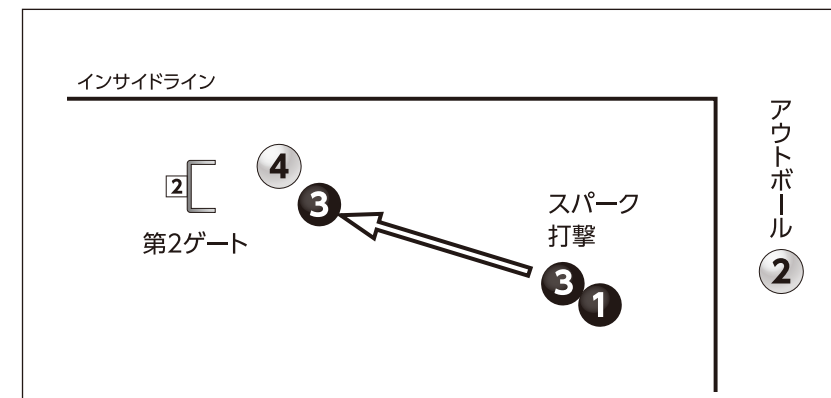


- 赤3番の打順になったら、⑤ボールにタッチをして、スパーク打撃で⑥ボールを第2ゲートに通過させたあと、自球①ボールが第2ゲートを通過することができます。また、④ボールの位置によっては、⑤ボールの通過タッチ(次ページを参照)などを狙うこともできます。

つけ球

- 図のようなボール配置で、赤1番が⑥ボールにタッチをしました。
- 上記の「送り球」と同じように、その場からスパーク打撃で第2ゲートの通過をすることが難しく、また、第2ゲート周辺には相手チームの④ボールがいる場合は、スパーク打撃で⑥ボールを④ボールの近くに移動させます。このように、相手チームのボールに、その打順より早い味方ボールを近づけることを「つけ球」と言います。

※ただし、次の白2番から狙われないことが前提です。



- 赤3番の打順になったら、④ボールにタッチをして、スパーク打撃で④ボールをアウトボールにしたあと、自球①ボールが第2ゲートを通過することができます。

ちょっとむずかしそうだけど、がんばるワン!



Lesson 5

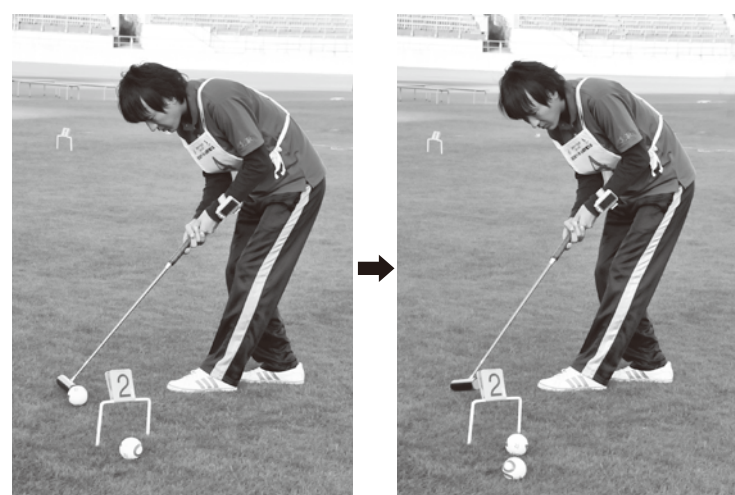
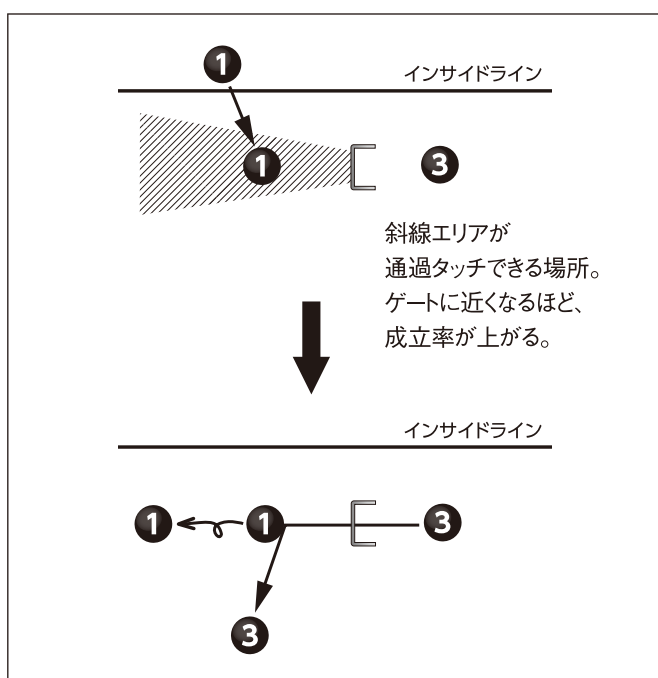
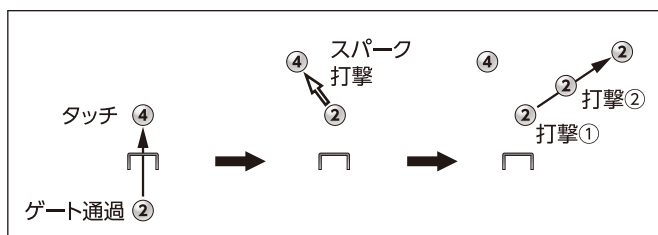
作戦の上級編

通過タッチ・タッチ通過

- 1回の打撃で、「ゲート通過」と「タッチ」が成立することを「通過タッチ」と言います（タッチしてからゲート通過した場合は、「タッチ通過」と言います）。
 - タッチした他球をスパーク打撃した後は、「ゲート通過の成立」と「スパーク打撃の成立」の特典として、続けて自球を2回打撃することができます。
- ※ただし、第1ゲートだけは、「通過タッチ」「タッチ通過」がありません。

★「通過タッチ」「タッチ通過」は最大の武器!

スパーク打撃した後は、続けて自球を2回打撃することができる「2打権」を活用することで、チームの得点を加算したり、1打では狙えない距離にある相手チームのボールを攻めることができます。「通過タッチ」を狙ったボール配置を見せることで、相手チームは狙われないように防御に徹しなければならないなど、ゲーム展開を大きく変える力を持っています。



通過タッチがきまったら、
かっこいいワッ!

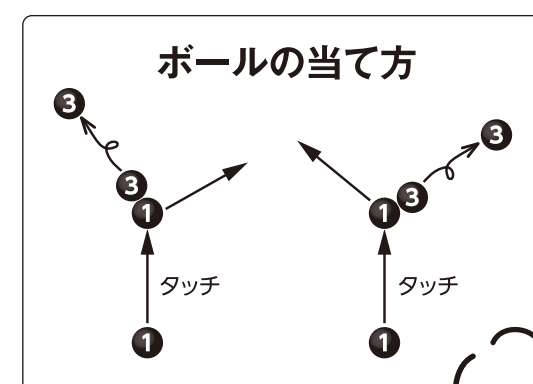


スライドタッチ

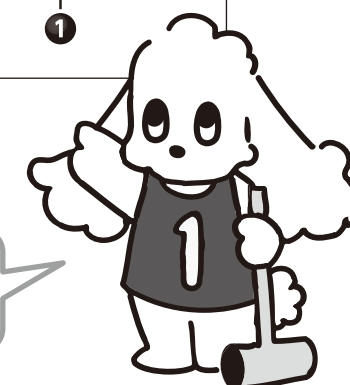
- 他球の正面ではなく、他球とタッチする接点を少しずつらすことで、タッチ後の自球を移動させることができます。これを「スライドタッチ」と言います。

★スライドタッチをマスターしよう!

自球を大きく移動させる場合には、通過タッチによって2回続けて自球を打つこと以外に、スライドタッチも効果的です。むしろ、スライドタッチは、タッチするボール1つあればできるので、速攻、かつ意外性が高く、作戦の幅が大きく広がるでしょう。



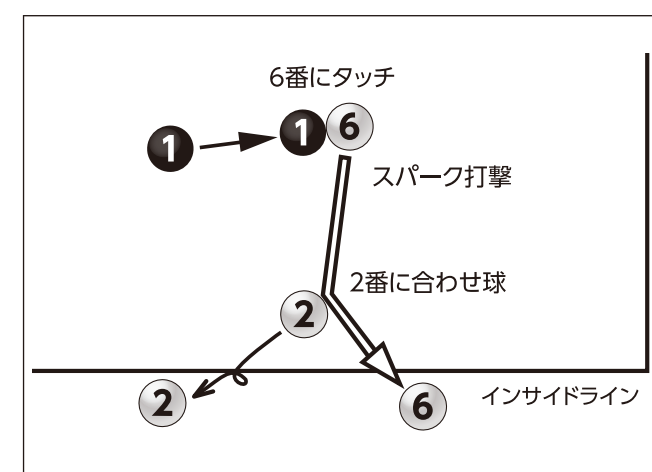
むずかしいから
練習するワッ!



合わせ球

- 1回のスパーク打撃で、複数のボールをアウトボールにすることを「合わせ球」と言います。
- 右図のようなボール配置で、赤1番が相手⑥ボールにタッチした場合、スパーク打撃で⑥ボールだけをアウトボールにするのではなく、ライン際の②ボールに当てるようにスパーク打撃をします。⑥ボールが②ボールに当たり、両方のボールがアウトボールになります。

※ただし、ボールの当たり方によっては、両方のボールがアウトボールにならないこともあるので、どのボールをアウトボールにすることが有効であるかを、きちんと考えましょう。



ここまで来たら、
ゲートボールの上級者じゃ!

